

紫芳会だより ～輝く先輩達～

オーストリア大使館
商務部上席商務官 **依田 健一氏** (高校29期)



ザルツブルクと姉妹都市川崎のミュージアにて



NYにてヨーヨー・マとの本番前練習中

国立市出身。立高時代クラブ活動は吹奏楽部。3年次、西独政府短期派遣プログラムで滞独。東京外国語大学ドイツ語学科卒業後、ソニー株式会社にて主に海外営業・マーケティングや経営企画を担当。都合12年のドイツ、英国赴任と40カ国以上に及ぶ海外出張で多国籍社員とのコミュニケーション、チーム作りを学ぶ。ソニードイツ(現地法人)取締役、本社秘書部長、大崎総務部長、グループ会社役員等を経て2013年退職し、現職。オフ活動では、ソニー社員・OBによるアマチュアオーケ「ソニー・フィルハーモニック・オーケストラ」での演奏活動を現在も継続中。楽器はオーボエ。2008年には同クラブ部長としてNY市・カーネギーホールでのチャリティコンサートを実行、指揮者ダニエル・ハーディング、チェリストのヨーヨー・マという世界的アーティストとも共演。

☆☆オーストリア大使館商務部HP も是非御覧ください☆☆
<http://www.advantageaustria.org/jp/Oesterreich-in-Japan.ja.html>



1977年に卒業した高校29期の依田健一です。

第一線でご活躍の方々の後は大変気が引けましたが、事務局の方が吹奏楽部の同期と後輩と言うこともあり、また母校を支援する紫芳会のお役に何らかの形で立てればと、このコラムをお引き受けしました。

現在勤務する駐日オーストリア共和国大使館商務部は同国連邦産業院貿易局が全世界70を超える国々で開設しているオフィスのひとつとして、貿易、投資、経済協力拡大・促進、つまりオーストリア企業の日本進出や輸出促進、販路拡大支援、見本市等の開催、日本の市場調査、VIP対応等の多様な業務を産業分野毎に行っています。人口約800万人、同じ言語の大国ドイツの10分の1、何かと影に隠れがちな小国ゆえ、産業より観光立国としてのイメージがありますが、レッド・ブルやスワロフスキー等、世界的なブランド企業もあり、まもなく開業する虎ノ門ヒルズ地下の免震技術、JRや私鉄で夜中に活躍する軌道保線車両など、目立たない所で縁の下を支える機械製品・技術を持つ企業も多いのです。



ウィーン国立歌劇場

私は舞台芸術分野担当として、色々なコンサート、オペラ、ミュージカル等の華々しい公演を脇から支える舞台装置・技術・機材、衣装、楽器、楽譜、教育メディア等を扱う企業の為に填日間の繋ぎ役を努めています。ウィーンにも出向き、また日本国内の関係企業や団体を回り、日本で技術や製品を紹介・販売したいという企業へのコンサルティングを日々行っています。今流行のクルーズ船に設置する大きな舞台装置から、ごく限られた分野の楽譜に至るまで扱う案件は幅広く、毎日興味は尽きません。

舞台芸術や音楽の専門家でもない私がドイツ語で仕事をこなせているのも、昨年まで32年間勤めた前職での公私に渡る経験と絆、又そのきっかけともなった立高での3年間です。中学から続けた吹奏楽、そして高2の時、予備知識ゼロで飛び込んだドイツ語の世界。その後幸運にも大学でドイツ語を専攻、楽器もクラリネットからオーボエに移り吹奏楽からオーケストラ活動へ。一時は教職の道も考え、立高で英作文とドイツ語の教育実習を経験しましたが、以前からのオーディオ好きが高じてソニーに入社。長い会社生活の3分の2はドイツ語やオーケストラとは縁無く過しましたが、今、50代後半、第二の社会人人生を迎え、音楽とドイツ語の学生時代にまた戻ってきた高揚感に包まれています。(丁度、勝手に動いていたロボット掃除機が自動的に充電器に戻った様などでしょうか...)当然、立高時代に今の自分は想像すらつきませんでしたし、常に何かになろうと思ってドイツ語や音楽に関わっていた訳ではありませんが、知らない内に立高にこの「充電器」を頂いていた事になりますね。

自らを振り返ると、今迄、上り調子の時代を運任せに好きな事をやって来た感があります。おかげで、心の健康は保たれ、明るく「ネアカ」に過ごせました。今、若い人達は全て早くから計画を立てて努力、実行し、確実な成果を求められるいささか窮屈な時代になってしまったようですね。ですので、ここで後輩へのメッセージなど述べるより、むしろ若い世代の努力や苦労を学ばなければいけないのは私の方かもしれません。そして今ここで申し述べたいのは、今尚、お元気でお変わりにならない当時の吹奏楽部顧問・井上智子先生、そして残念ながら震災の年に亡くなられた担任そしてドイツ語の恩師、故・田中安行先生、お二人への不肖の弟子からの感謝とお礼に他なりません。



ウィーンで講演中